

地域医療連携だより

■消化内科からのご案内

昨年の冬は、テレビドラマ『陸王』にくぎ付けとなりました。行田の小さな足袋屋こはぜ屋が、生き残りをかけて大手アトランティス社に対抗し競技用マラソンシューズを必死に開発する物語でしたが、我が町行田を舞台にしていることもあり、とても親近感を持って毎週観ておりました。そしてこのドラマは、我々を大変勇気づけ、力を与えてくれました。

当内視鏡センターは、開設されて今年で5年目に入りました。こはぜ屋と違って歴史はありませんが、まだまだ小さな規模で、でも職員の一人ひとりが必死に奮闘している、という点ではこはぜ屋と同じです。すべてのことができるようにはまだなっておりませんが、手掛けているものは最高水準で行う努力をしています。この地域の患者さまが、東京などに行くことなく地元で最高の治療を受けることができるセンターでありたいと思っています。

食道、胃、大腸の腫瘍性病変に対するESD（粘膜下層剥離術）は、前年ついに100件を超えましたが、昨年は120件まで増えました。行田市の近隣の市町村からご紹介いただけることも多くなっており、当院が消化器医療に力を入れていることが年々認知されていることを実感します。

検査数については前年から横ばいですが、当センターは地域の先生方と密接に連携をとっており、発見していただいた病変を精査して治療する機関として機能していきたいと考えているので、どんどん地域で検査していただき、当院は治療数を伸ばしていくことが目標です。

なかにはせっかく当院、また近隣の先生方が発見した病変でも、わざわざ東京などの有名病院で治療したいと希望される方が残念ながらまだおられます。どうしてもアトランティス社のRⅡを履きたいということなら仕方ありません。しかし、当院で治療を受けた方には、陸王を履いた陸上選手と同じ満足感、納得を覚えていただけたと思います。そのような目標を持ち日々精進してまいります。

内視鏡センター長 芹澤昌史



上岡直史
NAOFUMI KAMIOKA
消化器内科



南雲大暢
HIRONOBU NAGUMO
消化器内科医長



芹澤昌史
MASASHI SERIZAWA
内視鏡センター長



橋本良明
YOSHIAKI HASHIMOTO
消化器内科



大坂祥一
SHOICHI OOSAKA
内科副部長

■内視鏡センター検査・治療実績

●内視鏡件数（2017年）

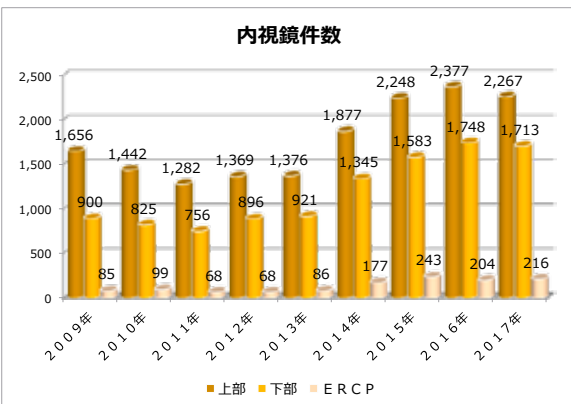
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
上部内視鏡	181	200	213	186	163	198	181	182	202	191	183	187	2,267
下部内視鏡	140	152	169	129	125	116	147	158	146	135	159	137	1,713
E R C P	19	23	24	12	22	13	7	21	18	19	23	15	216
計	340	375	406	327	310	327	335	361	366	345	365	339	4,196

●内視鏡の粘膜下層剥離術（ESD）件数（2017年）

部位	件数
食道	3
胃	70
大腸	52

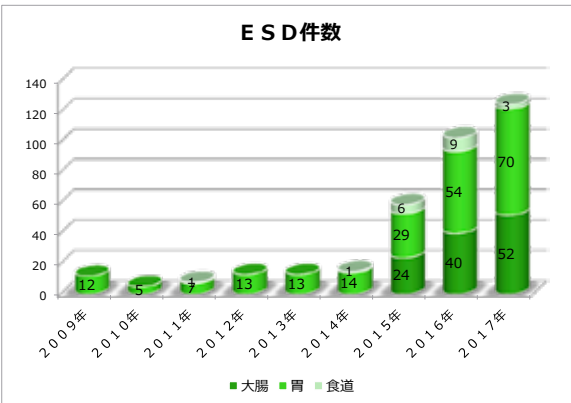
●内視鏡件数推移（2009年～2017年）

	上部	下部	E R C P	合計
2009年	1,656	900	85	2,641
2010年	1,442	825	99	2,366
2011年	1,282	756	68	2,106
2012年	1,369	896	68	2,333
2013年	1,376	921	86	2,383
2014年	1,877	1,345	177	3,399
2015年	2,248	1,583	243	4,074
2016年	2,377	1,748	204	4,329
2017年	2,267	1,713	216	4,196



●内視鏡の粘膜下層剥離術（ESD）件数推移（2009年～2017年）

	大腸	胃	食道	合計
2009年		12		12
2010年		5		5
2011年		7	1	8
2012年		13		13
2013年		13		13
2014年		14	1	15
2015年	24	29	6	59
2016年	40	54	9	103
2017年	52	70	3	125



●大腸内視鏡の粘膜切除術（EMR）/大腸ポリペクトミー 件数

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
大腸EMR	182	192	275	350	365	366	385
大腸ポリペク	4	37	9	56	137	267	285